

辻 泰弘 国会ニュース

つじ やす ひろ Kokkai News 2006年6月23日 NO. 47

参議院予算委員会 (3月24日) 質疑報告

◎ 義務教育は教育の根幹！ 国が財政責任を果たせ！！

辻 泰弘：義務教育費国庫負担制度の議論は財政の論理が優先し過ぎ。教育の論理が本体。義務教育堅持に国の財政責任は不可欠。決意の程は。

小坂 文部科学大臣：国の負担率は1/2から1/3へと下がったが、制度そのものは国と地方の負担により堅持。義務教育の根幹の保障にしっかり対応。



◎ 子供の安全を守るため、各省庁は連携し、政府一体となって取り組み！！

辻 泰弘：学校内の安全、建物の安全、登下校時の安全など、子供の安全に関わる事件が多発。民主党は学校安全対策基本法案を提出。政府も学校安全と犯罪防止に内閣を挙げて取り組み。

小泉 総理大臣：各省の連携、地域の協力、家庭と学校と地方公共機関など様々な連携が必要。公的な責任について、政府は連携してしっかり取り組んでいきたい。

◎ 抜本的な税制改革なき定率減税の廃止は国民を欺く公約違反！！

辻 泰弘：定率減税の廃止は、年収500万円で3万5000円、700万円で8万2000円の増税。平成11年、税制の抜本的見直しまでの特例として実施。政府は老年者控除の廃止などが抜本改革と言うが、当時は全く言わず、今になって、あれが抜本改革だったとは極めて勝手な解釈。

谷垣 財務大臣：配偶者特別控除上乗せ廃止も老年者控除廃止も税率構造見直しも大きな改革。

辻 泰弘：大きな改革とは言えるかも知れないが、当初公約していた抜本改革でない。詐欺的だ。

小泉 総理大臣：人の見方で「抜本的」の解釈が違うことは認める。抜本的改革は一つではない。

辻 泰弘：政府に都合の良い一方的な理屈。選挙公約にも反する国民を欺くやり方。強く指摘する。

◎ セーフティーネットを整備せず、格差拡大をもたらした小泉改革！！

辻 泰弘：セーフティーネット、社会保障の整備が政治には重要と発言。総理の言うセーフティーネットとは何か。

小泉 総理大臣：どうしても一人で立ち向かっていけない人に対して一定の生活を保障する機能。

辻 泰弘：5年前に候補者であった私は、「小泉改革は日本の社会の格差を広げる改革だ」と主張。

それは、小泉総理が競争的システムを掲げ、社会的規制の徹底的緩和、自助・自律の社会保障制度など、競争・効率・自己責任の論理が貫徹した改革を唱えていたからであった。

国会の初質問、総理への初質問で格差拡大の視点の政策を求めた。改革は必要だが、その視点を持ち進めるべきだった。小泉改革には欠如。個人へのセーフティーネットも極めて不十分だった。

小泉 総理大臣：年金・医療・介護改革。経済明るさ。失業改善。業績向上。社会保障遜色なし。

辻 泰弘：年金・医療・介護は給付減・負担増で、セーフティーネットにならない。派遣労働の拡大、無保険者・無年金者の放置など、セーフティーネットと言いながら何もしなかった責任は極めて重大。

小泉 総理大臣：悲観論から新しい挑戦は生まれぬ。失敗に懲りず、やればできる社会にしたい。

辻 泰弘：小泉総理に国民生活や暮らしにしっかり目を向ける視点が欠けていることを痛感した。

ご意見・ご要望等はお気軽にご連絡を。なお、本号は下記のホームページに掲載済。

兵庫県事務所 TEL 078-230-8824 東京事務所 TEL 03-3508-8402 <http://yasuhiro-tsuji.jp/>